

# 第 208 回競技委員会議事録

1. 日 時：2010 年 9 月 10 日（金）18 時 00 分～21 時 00 分

2. 会 場：連盟本部事務局

3. 出席委員：

競技委員会：委員総数 13、定足数 9、出席 13（内委任状 5）で成立。

清水康裕委員長、寺本直志、古田一雄、斉藤千鶴乃、西田奈津子、正村祐一  
山後秀幸、仲村篤志

以下委任状：林伸之、佐々部君敏、平田眞、田中陵華、山菅昭夫

オブザーバー：大政哲人、鈴木正人

4. 議事の経過及び結果：清水康裕委員長を議長に議事を逐一審議した。

## 第 1 号議案 マスターポイントの検討に関する報告

寺本、正村、仲村委員より口頭にて素案が報告された。

(1) 代表選手権の参加チーム数が少ないときの固定マスターポイントについて

(a) 参加チーム数が 4 チーム以上のときは、現行どおりマスターポイントを発行する。

(b) 参加チーム数が 3 チームのときは 75%の固定マスターポイントを発行する。

(c) 参加チーム数が 2 チームのときは 50%の固定マスターポイントを発行する。

(d) 参加チーム数が 1 チームのときは固定マスターポイントを発行しない。

(2) 国内の固定マスターポイントの見直しに関して

(a) 性別による参加制限のある競技会に関し見直し、現行の固定マスターポイントに 14/16 を乗ずることで合意した。

・高松宮妃記念杯（ミクストペア） 26.67 → 23.34（1 人の点数）

・全日本女子ペア選手権（ウィメンズペア） 26.67 → 23.34（1 人の点数）

・玉川高島屋 S・C 杯（ウィメンズチーム） 200 → 175（チームの全体の点数）

(b) 固定マスターポイントの変更は、2011 年 1 月 1 日以降とする。

(3) プレイヤ係数の見直しに関して。

(a) チーム戦において、チームのマスターポイントを人数で割る方式は、4 人チームを 100% とすると、5 人チームが 80%、6 人チームが 66.67%と、差がありすぎるのではないかという意見があった。

(b) しかし 4 人チームと 6 人チームの 1 人あたりのマスターポイントが全く同じで発行されるのは、おかしいという意見が出された。

(c) ナショナルの競技会は特別でも良いのではないかという意見も出されたが、リジョナル以下の競技会との整合性も考え、何らかのプレイヤ係数が必要なことに関して全員一致で合意された。

(d) プレイヤ係数の差をなだらかにする場合、マスターポイントの総発行量が増えることが指摘された。それに対し 4 人チームの点数を減らしてバランスをとることや、マスターポイントの計算体系そのものを見直すことなどが議論された。

(e) チームに発行されたマスターポイントをチームの人数で分けることは、妥当性のある考え方で人数の差も受け入れられるものだという意見も出された。

(f) 議論のうえプレイヤ係数は現状どおりとし、マスターポイント規則の根本的な見直しも当面必要ないということで合意された。

## 第 2 号議案 スクリーン規定に関する報告

(1) 2008 年より WBF の規定が変更されていることが報告され全訳が事務局から提出された。

(2) 表現がより詳しくなったことおよび一部ルールの変更が説明された。

(3) 2010 年度の高松宮記念杯および後期日本リーグは新規定を適用し、競技者に対する説明は、試合要項および競技前の説明で対応することとした。

第 3 号議案 入れ違いボードの IMP スコアリングペアやトータルポイントにおけるスコア数が少ないときの対応

- (1) 事務局より現行のアベレージプラスのスコアと、マッチポイントにおける規定を準用した A 案と、1 ボード分のスコアを基準とした上限の設定による B 案が説明された。
- (2) それぞれの難点が議論された中で、ファクタライズに係数の考え方を導入するべきではないかという新たな意見が提案された。
- (3) 次回委員会までに正村、仲村委員にてファクタライズの係数について検討した素案を作成することとした。

第 4 号議案 鈴木貴裕氏からの意見、コンベンションリスト A および B に関して。

- (1) Web ブリッジや 2/IGF のシステムからブリッジを覚えるひとも想定されるためコンベンションリストのリスト A とリスト B を一緒にしてはどうかという提案がされた。(トランスファーやマイケルズキュービッドから習うとリスト A の競技会に参加できないため)
- (2) 多くの入門書でトランスファーなどリスト B で扱っているコンベンションが扱われていないこと、リスト A は入門クラスの競技会にとらえ、なるべくアラートをしなくてもデュプレケートブリッジができる環境を整えるためにあるもので、現在でも必要性があること。Web ブリッジの経験者や、2/IGF でコンベンションを使用するプレイヤーはリスト B の競技会に参加することが妥当であること。また実用性を重視しリスト B 等のコンベンションから指導する方針自体は否定しないが、その場合はリスト A の競技会には参加できないことや、アラートの規定なども指導する必要があることなどが議論された。
- (3) その結果コンベンションリスト A は、入門者が競技に参加しやすい環境を整えるために必要であることが確認された。
- (4) 斉藤、仲村委員より回答案が提出され今回の議論を踏まえて修正し鈴木氏に回答することとした。

第 5 号議案 クラブディレクター承認報告

- (1) 以下 4 名のクラブディレクター認定が事務局から報告された。

C-00985	向山令子	158303	神奈川県
C-00986	岡野智美	200103	神奈川県
C-00987	玄地和男	203621	栃木県
C-00988	村上美保子	207807	東京都

第 6 号議案 その他議案

- (1) e メールによる臨時会議の結果 APBF 主催 1st ASIA CUP のマスターポイントを APBF 選手権と同等とし、年間獲得ポイントに加えることとした。また条件として APBF マスターポイントが選手権試合相当のマスターポイントととして発行されることを APBF に確認するよう清水委員長から指示があった。
- (2) 「礼儀とマナー」に関して、西田、仲村委員より素案が提出され意見が交換された。前文の内容や、表現について意見が提案され次回委員会で次案を提出することとした。
- (3) 2010 年 7 月 8 日から 2010 年 9 月 10 日までの上告、1 案件の裁決に関して意見を交換した。
- (4) IBPA の 2008 年上告の記事に関して意見を交換した。

次回競技委員会は 11 月 12 日（金）18 時 00 分からの開催を予定する。

以 上